



遣伯使見聞録



いただきます！ ごちそうさまでした！

(ポルトガル語では?)

学校訪問では、DVDを使って豊橋の学校紹介をしています。日本の小学校の一日の流れ、どんな学習をしているのか、ブラジル人など外国籍の子たちはどんなふうに勉強しているのか、そして日本の学校の一年間の行事はどんなものがあるのかなどを紹介します。ブラジルの子たちが「わぁ！」って反応するのは、プールでの水泳と遠足、給食と掃除を自分たちでやっているところです。子どもたちは「うらやましいなあ」「日本に行きたいな」という気持ちになっているようです。



日本にあって、ブラジルにないものの一つに「いただきます」と「ごちそうさまでした」という言葉があります。ブラジルの子たちは、食べ物を目の前にしたら、いきなり食べ始めます。食べることに感謝する日本の習慣は伝えたいなと思いました。反対に、ブラジルにあって日本にないものは、誰にでも必ず目を見て笑顔であいさつすることです。とてもうれしい気持ちになります。これは、日本の子どもも大人も見習いたいことだと思いました。

習字の授業

ブラジルの子たちは、日本の文字にとっても興味をもっています。それを「筆」と「墨」で書くなんて興奮してしまうみたいです。でも、興奮したらいい字は書けません。そこで、書く前に三つの約束をしました。①Use Fude e Sumi com cuidado (筆と墨を大事に使おう) ②Escreva sem falar (しゃべらずに書こう) ③Escrevo devagar (ゆっくり書こう) です。書き方の見本を示し、書けた子にはカタカナで名前を書いてあげました。



普段はやる気がなくて少し反抗的な子も、だまって真剣に字を書いていた。名前を書いてあげると「ありがとう！」と言える子もいました。自分の書いた字を見つめ、とてもうれしそうでした。

チャレンジ精神 ～ナッツコラム～

せっかくブラジルに来たんだから…って、ナッツはけっこうチャレンジ精神旺盛になっていて、勧められるとやっつけてしまう。通訳さんが街路樹で見つけた実を指さし「あれ、食べてみる？」なんて言った。日本だったら遠慮するのに「はい、食べてみたいです」だって。それはジャックフルーツ。外見は気持ち悪いけど、味はまあまあ。ドロツとしていて甘い。南国風の味、でも例えようがない。また一つ初めての味を知ったナッツだった。(ナッツの腕時計より)

